

りそな 経済フラッシュ (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

◎注意事項をよくお読み下さい

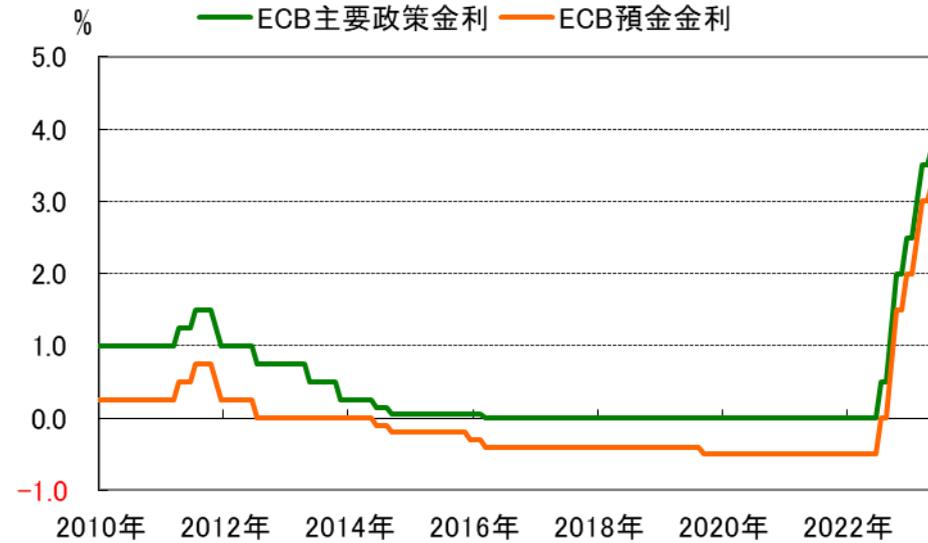


○概況

- ◆ ECBは7月27日の理事会で9会合連続での利上げを決定。利上げ幅は前回と同様0.25%とした。
- ◆ ラガルド総裁は記者会見にて次回会合での利上げの有無について「あるかもしれないし、停止するかもしれない」とし、経済指標次第との姿勢を強調した。
- ◆ 利上げは予想通りだったものの、声明文や会見がハト派的と受け止められ、欧州金利は低下、主要通貨に対してEUR安の反応となった。

- ✓ 7月27日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では9会合連続での利上げを決定し、預金ファシリティ金利を3.75%、主要政策金利を4.25%、中銀貸出金利を4.50%へそれぞれ引き上げた。利上げ幅は前回に引き続き0.25%とした。
- ✓ また民間の金融機関がECBに預ける最低準備金への付利について、これまで預金ファシリティ金利と同水準としていたが、今回0%に引き下げることを決定した。
- ✓ コロナ・ショック後の量的緩和で膨らんだバランスシートの縮小方針については変更なし。保有債券の満期償還に合わせて保有資産規模は縮小し、金融引き締め効果が生じていく見込み。
- ✓ ラガルド総裁は理事会後の記者会見にて、前回のタカ派トーンから大きく転換し、次回会合での政策変更の有無については「経済指標次第」を繰り返した。会見の終盤では「現時点でカバーすべき領域はまだあるのか、現時点ではそうとは言えない」と述べると、ユーロが一段と下落する場面もあった。
- ✓ ユーロ圏では各種景況感指数の悪化が見られ、またすでに2四半期連続のマイナス成長となり、景気後退期に入ったとされる。消費者物価指数は高止まりが続いているものの、落ち着いた兆しも見られており、これまでの利上げの波及効果が表れる中で、FRBと同様に利上げの最終局面に入ったものと見られる。FRB、ECBの利上げ打ち止めが視野に入中、ここまで上昇してきたユーロには巻き戻しの動きも出やすく、今後はユーロの上値の重さが意識されよう。先行きでは日銀の本格的な政策修正も視野に入中、ユーロ、ドル、円は金融政策の思惑に振られ、神経質な展開となろう。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し (6月時点)】

	2023年	2024年	2025年
実質GDP成長率	+0.9	+1.5	+1.6
3月時点の見通し	+1.0	+1.6	+1.6
HICP (消費者物価)	+5.4	+3.0	+2.2
3月時点の見通し	+5.3	+2.9	+2.1

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。